

NEW FACE 協議会メンバー紹介



新入会員の三浦敬一です。令和6年3月に南牧村に移住しました。現在は下仁田のピースフル群馬に勤めています。よろしくお願いいたします。

①協力隊を卒業した後に起業し、鳥獣害対策として地域資源を生かしたジビエの事業をされているご夫婦
②協力隊から役場職員になり、なんもくふれあいテレビディレクターをされている男性
③改修した古民家で占いや陶芸体験ができる民泊を営んでいる女性
④Uターンで起業し、出張ヘアカットサービスをされている女性

ぐんま 移住&交流フェア 2025に出展

「村唯一の自分になろう」をテーマに、村で活躍する移住者を紹介

令和7年11月16日、群馬県主催の「ぐんま移住&交流フェア2025」に参加しました。場所は、東京都千代田区有楽町の東京交通会館内のふるさと回帰支援センターです。移住相談会で出張するのは私自身初めてで緊張しましたが、来場者に南牧村に移住する魅力をお伝えすることが出来たと思います。

今回のイベントでは、各市町村の移住相談ブース、県関係団体ブース、体験&ワークショップブース、山本県知事と移住者のトークセミナーなどがあり、それぞれとても盛り上がりつつありました。イベント全体での来場者は、324組、478名にのぼり、そのうち7組10名の方が南牧村ブースに来てくださいました。南牧村を目当てにピンポイントで相談に来てくれた方や、都市部に近いからという理由で群馬県西毛エリアで検討されている方、田舎暮らしに強い憧れのある方など、様々な目的をもった方がいらっしやいました。

また、市町村のブースを3つ以上相談すると特典がもらえるスタンプリーも開催されたので、例年より多くの方が南牧村ブースに立ち寄ってくださいました。南牧村ブースでは「村唯一の自分になろう」をテーマに掲げ、村で起業や就職し、活躍している次の4組の移住者を紹介しました。



南牧村ブースでは、村で活躍する4組の移住者を紹介



フェアに出展した群馬県の自治体の方々

予告 アメリカから映画クルーが来る?!

今年の2月下旬から3月上旬にかけて、南牧村を舞台にしたドキュメンタリー映像制作チームがアメリカから来村します。日本の地方における少子高齢化の現状と地域再生の可能性をテーマ

以上、4組の移住者を南牧村ブースで取り上げ、来場者に紹介しました。作成したパネルや装飾に興味を持ち質問してくださる方もいて、展示を工夫してリニューアルしたことが、とても好評でした。今回の移住相談会は私自身、良い初陣を飾ることができたと思います。次回はより多くの方に来ていただけるように工夫し、移住に繋げていきたいです。(工藤寄稿)

に、取材を行うとのこと。また、2月28日に行われる協議会主催の移住者交流会も取材予定です。南牧村を取り上げたドキュメンタリー映画の完成が、とても楽しみです!(協議会事務局)



間取りの図面を作成中

空き家内部調査の話

皆さんは、なんもく山村ぐらし支援協議会が行っている空き家内部調査を知っていますか?主に空き家バンクに掲載するために、依頼があった村内の空き家物件に行き、その家の間取りを調べたり、写真を撮ったり、どのような設備があるかを確認したりと、結構大変な作業です。私は間取りを調べるために、家の大きさを測りその場で概略の間取り図を書いておく作業を担当することが多いのですが、空き家はどれも造りが違いま

中に石垣や井戸がある家、家の中を小川が流れていて温泉みたいなお風呂がある家、全ての窓が陽が当たりやすい位置にある家など、さまざまな工夫が随所で見られるからです。その家に住んでいた南牧の先人たちは、少しでも快適に過ごせるようにと考えて家を建てたのでしょう。そんな新しい発見を楽しみながら、今後も空き家調査を続けられたらと思います。以上、空き家調査担当?でした!(中澤寄稿)

2026(令和8)年2月発行
通巻第45号(冬季号)

発行責任者・発行元:
なんもく山村ぐらし支援協議会
問合せ: 南牧村役場
移住・定住課
協議会事務局
電話: 0274-87-2011(代)
紙面編集: 松林・高柳



協議会QRコード

協議会HP
<https://nanmoku.org/>
活動内容や各種情報を
随時更新中!

【空き家問合せ件数】
R7年7~12月(前回比)

電話: 10件 (-1)
(7月 1件)
(8月 3件)
(9月 1件)
(10月 3件)
(11月 1件)
(12月 1件)

メール等: 25件 (-1)
(7月 0件)
(8月 5件)
(9月 4件)
(10月 2件)
(11月 6件)
(12月 8件)

現地見学: 41件 (+22)
(7月 2件)
(8月 8件)
(9月 3件)
(10月 6件)
(11月 20件)
(12月 2件)

【協議会ウェブサイト
訪問・閲覧数】
7/1-12/31(前回比)

閲覧数 42,000(↑)
訪問数 11,000(↑)
訪問者数 8,040(↑)
平均ページ閲覧
1訪問3.7ページ(↓)

会員からの投稿

～陶芸作家として生まれ育った南牧で暮らす～

南牧村の
檜沢で育つた自分は、南牧に住み続けたいとずっと思っています。5年ほど前に下仁田で陶芸を学んだことがきっかけで、今は陶芸作家として活動しています。

昨年檜沢のアトリエを本格始動し、民泊「Mattyの古民家」の宿泊客を対象に陶芸体験を行ったり、「ちよつとしたカフェ」など村内外のお店で作品の委託販売をしています。

私が作品を作る上で大切にしていることは、誰かを思う気持ちから表現される健やかな美と温もりです。

民泊での陶芸体験は、お客様の作りたいものを聞いてから、作り方を教えていくというフリースタイル型です。主に、お客様の作品の研磨や洗浄、焼成（しゅうせい）や釉掛け（うわがけ）をしています。隙間時間に自分の作品作りや釉薬（ゆうやく）の研究をしています。

最近、南牧村で農業をしている五十嵐さんが育てた麦わらを燃やして篩（ふるい）にかけ、アクを抜いたもので釉薬を作っていました。

す。自然のもので成分が均一では無いのもあったか、なかなか難しくまだ失敗ばかりですが、いつか完成させます。今後も、南牧村で陶芸活動を続けていきたいです。

（岩崎寄稿）



なんもく学園での出張陶芸体験教室の様子



岩崎さんの想いのこもった作品

南牧村でのインターンシップを終えて

移住・定住課で受け入れを行う、大学生が南牧村の移住対策の状況を理解・体験する短期間のインターンプログラム（職場体験）に金井くみさんが参加されました！

|||||

9月10日から2日間、南牧村でのインターンシップに参加しました。私は高崎市に在住していますが、父が南牧村出身で祖母も南牧村に住んでいるため、村には何度も足を運んでいます。インターンシップでは、

移住・定住課で受け入れを行う、大学生が南牧村の移住対策の状況を理解・体験する短期間のインターンプログラム（職場体験）に金井くみさんが参加されました！

9月10日から2日間、南牧村でのインターンシップに参加しました。私は高崎市に在住していますが、父が南牧村出身で祖母も南牧村に住んでいるため、村には何度も足を運んでいます。インターンシップでは、



線ヶ滝にて元気いっぱいな金井さん

なんもく学園紹介セミナーを開催しました！



学園紹介セミナーの様子

令和7年11月30日（日）、なんもく学園で群馬県・南牧村共催の移住セミナー「少人数教育の最先端！なんもく学園ってどんな学校？？」を校紹介2025」を開催しました。

昨年3月にオンラインで開催した内容を大幅にアップデートし、今回は希望者が現地で見学もできるようにしました。事前のセミナーへの申込みは8組18名あり、そのうち4組11名が当日現地で参加しました。セミナーでは、初めに南牧村の概要を紹介した後、なんもく学園教務主任の尾高先生とALTのAlice（アリス）先生が授業の様子を写真で詳細に紹介し、魅力を伝えてくれました。最後に、なんもく学園に通うための移住までのステップを具体的に説明しました。

参加者の皆さんはなんもく学園の教育内容に関心が高く、終了後のアンケートでは「地域との関わりが多く、先生と生徒が近い形で、学べる環境」「先生が目が行き届きやすいこと」「9年間通して安心した環境での学びの定着が期待されること」「生徒・児童一人ひとりの個性や成長度合い・能力に応じたきめ細かい指導が可能な体制であること」を良いと感じていただきました。

セミナー終了後、現地参加者は学園内を見学しました。参加した子どもたちが学園内を楽しそうに駆けてボルダリングで遊んでいる様子がとても印象的でした。

なんもく学園の入学を希望されても、実際に移住するまでには時間がかかりますが、種まきの時期と考え、来年度も開催を検討しております。今後も地道に活動が続けていきたいと思っております。なお、アーカイブ動画のご視聴をご希望の方は、なんもく山村ぐらし協議会ホームページをご覧ください。（大井川寄稿）

